

Contents

「エイズに感謝」 林達雄	1
「実践のための性教育セミナー」2003 年度報告	2
研究成果発表会	4
専門学校と連携した「HIV/AIDS ポスター展」	5
活動報告	5
お知らせ	8

エイズに感謝

アフリカ日本協議会代表 林 達雄

皆さんお久しぶり

エイズのことなど何も知らなかった私が「一緒にアフリカに行こうよ」と池上さん、樽井さんをダーバンエイズ会議にお誘いしてから丸4年がたつ。この間、世界のエイズ事情は随分と変わった。南アフリカのエイズ裁判の感染者側の勝利がきっかけになり、世界最強の国際機関・WTOのルールが変わり、今アフリカでエイズ治療が実現しつつある。

ダーバン会議のテーマは『沈黙を破れ』だった。人口の8人に1人がHIVに感染しているといわれながら、あの頃アフリカではエイズについて誰も語らなかつた。レッツ・コンドームと書かれた看板が空しく風に揺れていた。コンドームを着けよう、予防啓蒙を呼びかけるボランティア自身がよく話を聞いてみると検査に行つたことがない。すべてがそんな調子だった。まさにHIVウイルスの思う壺にはまっていた。恐怖ゆえに語れない、誰も語らないから本当のところかわからない。人の恐怖と疑心暗鬼と偏見とパニックと沈黙を利用してウイルスは支配を広げていった…

そんなアフリカの空気がここ1、2年で明らかに変わった。治療を受けられる人が出始めると同時に、エイズの語り部も急速にふえた。ケニアや南アフリカのスラムでは、小さなケア・グループが雨後の筍のように増えている。

政治が変わるといふのは、こういうことなんだと実感した。アフリカのエイズ治療はまだまだ何千人かのレベルの実験的段階にすぎない。それにも関わらず、エイズをとりまく空気は一変する。出口がほんの少し見えただけで、エイズ対策全般が動き始める。

最初に出口を作つたのは一握りの感染者たちだ。2000年のダーバン会議のとき彼らはポジティブと書かれたTシャツを着て、会場を囲んでいた。奇怪な若者たちだった。穏健なエイズ活動家たちからは、彼らは大切な存在ではあるが、偏っていると見られていた。そう見えたのも無理はない。彼らの多くは無け無しの勇気を振り絞って、やっとの思いで身をさらしていたのだから…

そんな彼らの声を欧州のマスコミが世界に伝え、数十万の署名が集まることによって、南アフリカのルールが変わり、世界のルールが変わつた。ルールが変わると役人たちも変わる。世界保健機構(WHO)

は2005年までに300万人の治療計画を打ち出し、世界基金はそのための資金を各国に回し始めた。アフリカの政府も元気づき、国家ぐるみの対策へと向かう。国の姿勢が変わると、人の気持ちも変わる。変えたのは医者でも国連でも政府でもなく、感染者自身である。患者サイドが世界の医療をつくりつつある。日ごろからの地道な努力も大切だけれど、国際政治を変えることも大切なのだ。動き始めたときに、一気に前進させることも重要である。

私自身は世界中をぐるぐる回りながら、そんなことを日本のみんなに伝えなかつた。直腸癌の手術の後、入院院を繰り返していた私も、エイズに夢中になっているうちに、元気が出てきた。エイズ仲間感謝したい。エイズは感染者・死者の数、次世代への影響力、偏見・差別そのどれをとっても他の追従を許さない病気の三冠王である。SARSや鳥インフルエンザウイルスなどエイズの足下にもおよばない。テロや戦争も見かけが派手なだけで、エイズとは一桁も二桁も違う問題だ。

ところが、そんなエイズ対策の前進に妨害者があらわれた。テロとの戦争を理由にのしあがったブッシュ君である。お金を湯水のように使い、エイズ対策にまわるはずのお金を横取りしてしまった。ブッシュが登場すればミニ・ブッシュも登場する。アジアのミニ・ブッシュたちはドラッグ・ユーザー、セックスワーカー、外国人労働者などのエイズ仲間たちを『テロ対策』を理由にいじめ始めた。日本のミニ・ブッシュ小泉君は人道援助を理由にイラクに自衛隊を送りつつある。

そこで私はテロで有名なイラクに行つてきた。イスラム教の祭日の爆弾事件に遭遇した。日本ではどのように報道されたかわからないが、現地の人々は意外なほど冷静だった。事件があれば、外出を控え、2、3日様子を見ればよい。その程度のことである。テロを宣伝する影で、米系企業が暗躍している。石油、復興ビジネス、援助にたかる蠅たちである。現地の人々が望むことは、進駐軍が撤退し、イラク人による政府が早くできることである。石油で得たお金が、民生部門にまわれば、外国からの援助は必要がない。

テロやSARSなどの問題を冷静に受け止めることが大切だ。それぞれの問題の等身大の実像を見きわめ、政治に結びつけてゆきたい。

エイズという試練の王道に磨かれた私たちには、それができるはずである。

「実践のための性教育セミナー」2003年度報告

(財)日本性教育協会(JASE)との連携で開講したはじめての4回連続講座。講義とワークとパフォーマンスをちりばめた楽しくてパワフルな「実践セミナー」でした。

全国で若者の性とかかわっている教師、助産師、保健師、相談員、研究者から学生さんまでのべ100人余りが集いました。4回の日程とテーマは別掲のとおりですが、参加者の岡村聡子さんからホットな感想文をいただきました。人材は力なり、仲間は資源なり。今年度もはりきって企画します!! 2004年度の日程はP8を参照ください。(池上 千寿子)

2003年度セミナー・スケジュール

8月24日(日)

午前: ワーク「現在の性教育の現場の抱える問題」

午後: ワーク ビデオ「LET'S CONDOMing」を見て

12月13日(土)

午前: 講義編

「ニーズのちがいにあわせた対象別アプローチ」

徐 淑子(新潟県立看護大学)

「安心して性を語る参加型手法について」

池上 千寿子

午後: 実践編 セクシュアルヘルスをゲームで学ぶ

「コンドーム風船バレーボール」「コンドーム膨らまし競争」

「リスクアセスメント」「すごろく」

12月14日(日)

午前: 講義編

「性の相談にかかわる支援者のメンタルヘルス」

野坂 祐子(武蔵野大学)

午後: 実践編 ワークショップと交流

ワーク「プライバシーにかかわるジレンマ」

生島 嗣

2月1日(日)

午前: 講義編

「性教育のための理論武装: 包括的性教育 vs. 禁欲教育」

池上 千寿子

「メディアにみるジェンダーと保健行動」

東 優子(ノートルダム清心女子大学)

午後: 実践編

ワーク「手作り性器模型作成」

野坂 祐子 ほか

2003年度「授業のための実践セミナーに参加して」

岡村聡子

2002年度の本セミナー(2003年2月1日)に参加し、そのあまりの面白さにすっかりセミナーがクセになってしまった私。2003年度は2、3、4回に参加しました。それをひとことと言うなら、大変多い充実したものでした! その全てをご紹介できないのは残念ですが、私にとって特に印象深かったレクチャーとワークショップの体験を書いてみたいと思います。

2003年12月14日(3回)。午前、武蔵野大学心理臨床センターの野坂祐子さんによるレクチャー「性の相談にかかわる人のメンタルヘルス」。今まであまり語られてこなかった援助者のメンタルヘルスについてのお話でした。野坂さんご自身、レイプ被害相談の現場で日々レイプ被害者の話を聞くうちに、被害者の感情がうつってしまう、あるいは何とか助けてあげたいなど、トラウマをかかえる人に接することによって引き起こされる二次的外傷性ストレスにさらされたとのこと。援助者としていかに相談者にかかわるかについて「援助者も問題をもった傷つきやすい一人の人間であることを認めることが大事だと思います。」とのことばにジーンとしてしまいました。ああ、時代はここまで変わったんだな、と深い感慨を覚えたのです。20年前、精神医療の臨床にいた私。医局に集う連中は皆ひとくせある人物で、ほぼ例外なく生育歴に問題をかかえていました。私を含めていわばみんなビョーキでした。でも、当時はまだ「援助職を選択する者の被援助性」が語られることはなく、援助者が自分の問題や弱さを見つめるという発想がありませんでした(おそらくその為に私は最初の職場で二人の同僚の自殺未遂に遭遇しています)。自分の弱さや本質的な問題に目を向けるのはとても勇気を要することです。野坂さんのことばの後ろには「そのまんまのあなたでOKです。人は誰でもそう強いばかりではない。自分の心に起きていることから上げないで。大丈夫ですよ。」といった温かなメッセージがびったり貼り付いていて、感動しました。うるうるしました。

午後のワークでハッとしたのは、相談者のプライバシーをどう扱うかについて。相談で知れた相談者のプライバシーを、*組織内で、外部連携先と、或いは相談者の家族と共有するかどうか。*それは相談者の実名か、イニシャルか、匿名か。*HIVに関する相談だとしたら感染の事実・感染経路はどう扱うのか。*相談者が未成年の場合だったらどうするか。等々、具体的に細かい状況を設定し、また設定を変えながらディスカッションしていきました。グループワークだったので各参加者の現場の違いから様々な意見が出ましたが、何がハッとしたかといったら、私達(一応シロウトさんではない、各現場で相談なり教育なりに関わっている専門家と呼ばれている人達)って、案外他者の「プライバシー」をないがしろにしてきたんじゃないか、ということ。自他の境界線を引くのが下手で、ことに組織内部(身内)にはすごく甘い体質をもっているのではないか、ということ。こうした、私達の中にもある日本人の体質が、もしかしたら薬害エイズ事件や、くり返される医療過誤のみみ消し事件の温床になっているのかもしれないと感じ、背筋が寒くなりました。これは、他人事じゃない!

さらにこの日は相談者の自己決定についてのワークもあり、けんけんが



▲小グループに分かれてのワーク



▲ JASE のセミナールーム

くがく！ 状況設定：私は保健室の養護教諭。そこに生徒の太郎がやって来る。太郎には彼女がいて、二人には性関係がある。「センセ、彼女がHIV検査を受けたら陽性だったんだって!! オレも検査を受けるよう勧められたんだけど、どうしよう!」この太郎君の相談を受けるに当たって、*インテーク時 *検査前の時期 *検査後の時期 各時期に何に留意して相談を受けていくかについて話し合いました。彼女とはいつから性関係にあるのか。コンドーム使用の有無・頻度。リスクアセスメントの意味から聞くことができれば性交のスタイルも聞いたほうがいいのかも（アナルもあったか）。彼女がHIV (+) を太郎君に話したのはいつか。太郎君のHIVに関する知識も確認しなくちゃね、等々話し合っているうちに「やっぱり検査を受けてみるように勧めるでしょ！（最後の性交から3ヵ月後に）」という意見が多かった中、「検査を受けるか受けないかは太郎君が決めるまで待ちたい。」という意見が出ました。「それは、理想としてはそうだけど、もし感染していたら早く治療を始めた方が治療効果は上がるワケだし。」「でも、未成年でしょ？ 親の保険証を使うことで、親に何か言われたら?」「親も病名までは知ることはできないよ。」「本人が自己決定することが大事だと思う。」「だけど、もし不安から捨て鉢になっているような子と性交するような行動にでたらどうする?」「そうならないように、インテークの時にしっかり支えて次の予約も入れて。外部の相談機関とか、ぶれいす東京のホットラインも教えておくとか。」「自己決定はね、大事だと思うよ。でも、私としては首根っこつかまえてでも検査を受けさせたいね!（これ私）」口角泡飛ばす大激論になりました。生島さんが電話相談での経験をふまえて、次のようなフォローアップをしてくださいました。「HIV陽性かもしれないという不安は、スティグマ（社会的烙印）の不安です。自分は社会から落ちこぼれてしまうのではないか、という関係性喪失の不安。この不安の中には実体のある不安と、おぼけのようにふくらんだ実体とかけ離れた不安が混在しています。相談の中で、この二つを整理して、等身大の不安にしてあげることが大切。検査を受けるか受けないかは、相談者の自己決定にまかせます。無理に、或いは無断で検査を受けさせられた場合、結果を受け入れられなくて、治療にのらない、治療中断というケースが多いんです。相談者を不安定な状態にしないためのサポートが求められているのです。」「う〜ん、説得力ある！ 相談者が自己決定するまで待つことの方が、多分支援者にとっては難しい（少なくとも私にとっては）。でも、支援は“支配”ではないのですね。支援者が相談者の人生を肩代わりすることが出来ない以上、それが支援ではない以上、相談者の自己決定（それがどのようなものであれ）をサポートし続けることが支援の本質なのでしょう。難しすぎて、頭でわかった積もりでも、まだおなかに落ちてきてくれない難問です。

さて、明けて2004年2月1日、今年度最後のセミナーは午前中が池上さんと東さんのレクチャー。池上さんの講演のタイトルは「禁欲のみ VS 包括的性教育—アメリカにおける性教育に関する政策と政治—」1980年代から現在までのアメリカで、共和党と民主党が政権を交代するたびに、性教育が禁欲教育と包括的性教育の間を揺れ動いてきた様がよくわかる内容でした。私はこの池上さんの話をいろいろなところで3回くらい聞いていますが、毎回話の力点が少しずつ違っていて飽きないです。今回面白かったのは、81年にエイズがアメリカに現れた時レーガンは何もしなかった、ところがレーガンの親友だったDr.クープ（当時公衆衛生局長官）がエイズについて学びはじめてから、公衆衛生の政策が180度転換した、という話（レーガンが変化したわけではありません）。そりゃあ、勉強して現場を知れば、人間変わるよね、という当たり前の

話なのですが、話のわからない人が大手を振って闊歩する現在の日本にいて、みんな当たり前の勉強しろー!! って思っちゃう。それから、参加型による気づきの学習法がなぜ行われるかという、「頭だけでは行動に結びつかない。」「情報の身体化」のため、という話。「情報の身体化」って、インパクトがあることばで、いい得ているなあ、と思いました。

東さんのお話は、TV番組におけるコンドーム使用、避妊行動を97年から01年までの5年間に高視聴率をとったドラマを25本見て、1909シーンを分析した、という気の遠くなるような研究についてでした。ああ、この東先生がビデオを見て見て見て研究した人なんだあ。尊敬・脱帽！ 結果としては *性に関する情報・描写が豊富である割に、性の保健行動に役立つメッセージが乏しい *性感染症への関心の薄さ *愛のためなら命も捨てる「恋愛至上主義」など、気になる点が多々ありました。なんだかんだ言っても、こと恋愛に関しては30年前も今も女の子のメンタリティーはおんなじか？ 人間の変化するスピードよりも、時代の変化の方が断然早くて、人間は追いついていられないんですね。そこにウイルスが付け入るのかもしれないなあ。

お昼は立食パーティー！ おいしいサンドイッチをパクつきながら、パワフルな参加者、役者ぞろいのスタッフと楽しいおしゃべりの時間を過ごさせていただきました。

午後のプログラムはさらにエキサイティング。マロonzの挿入型コンドームの啓発ビデオ、すごかったあ。ノートのメモには「なないろマンコ、装着いつでもOK、スタイルあなたらしく、花びら外リング」と大書してありました。後日、資料を整理していた私が思わず「ね、なないろマンコのビデオ見てきたんだけどさ…」と子どもに話しかけたところ、普段からアブナイオバサンと私を敬して遠ざけている下の息子は、さらにズルッとあとずさって「オレに言わなくていいから。ひとりやってて。」おお、いけないいけない、境界線。親しき仲にも礼儀アリ。

トリは手作り教材作成ワーク「性器を作っちゃおう!」で、私達のグループは“ふとももの間にあるよね、女性外性器”を、ぶれいすのスタッフもちよりの雑貨・廃品で見事完成させたのでした！ グループ発表も素晴らしく、各グループこだわりの性器が出来上がり、これが廃品？ と見まごう程の出来映え。中にはインターセックスの外性器というもあり、参加者の皆さんの発想の柔らかさ、レベルの高さに拍手喝采。それから忘れられないのが、タートルズのパフォーマンスショー。お二人の掛け合いがバツグンで、おなかがよじれてもう笑えない、というくらい笑わせていただきました。



▲身の回りの素材で性教育用の教材を作る

一日こんなに勉強できて、ためになって、心から楽しめて、エンパワメントできて3000円！ これはぜったいオトクです。

この一年結構辛かったです。私のような個人商店にまでバッシングの波がヒタヒタと押しよせ、ことばひとつ言うのもおっかなびっくり、ヒトの顔色うかがうような、とつてもグレーな一年でした。でも、このセミナーのお蔭で「負けないよ〜ん!」と思うことが出来ました。次年度も楽しく、エンパワメントできる講座が開催されるとか。全国で青息吐息の関連業界のみなさん、ぶれいす東京の実践セミナーで酸素吸入して、性教育冬の時代をサバイブしましょう。私たちはひとりぼっちではないのですから…!!

研究成果発表会「男性同性間の性行為におけるHIV感染の拡大とその背景」

Gay Friends for AIDSが2002年度に行った調査などを基に、研究成果をどう啓発につなげていくか、冊子、ビデオ、パフォーマンスなど、ふれいす東京のさまざまな取り組みが報告されました。
(主催：財団法人エイズ予防財団、企画・運営：ふれいす東京)

2月21日、新宿二丁目の中ほどにある、ADVOCATES BARにおいて、エイズ予防財団の助成制度による研究成果発表会が行われました。「男性同性間の性行為におけるコンドームの使用／不使用に関する研究」と「エビデンスに基づくさまざまな啓発表現のとりくみ～Living Togetherという戦略～」の2つの講演、そしてゲイ男性2人のユニット「タートルズ」によるパフォーマンス「保険としてのコンドーム使用」という、硬軟とり混ぜたバラエティー豊かな発表会となりました。

「男性同性間の性行為における

コンドームの使用／不使用に関する研究」 葦田 竜也

2002年度にゲイ・バイセクシュアル男性に対するフォーカスグループディスカッションと、そこから得られた質的データに基づくアンケート調査、分析が行われました。コンドームの使用・不使用に関わる6つの因子を抽出。相手依存、場のノリ優先、相手のムード優先、コンドーム使用自信感、準備負担感、楽観でした。若年女性(異性間)にみられる相手依存、若年男性(異性間)にみられる使用自信感といった因子が、ともに共通する一方で、場のノリ優先という、ゲイ・バイセクシュアル男性に特徴的な結果も得られました。

結論として、個人の意思と行動が強く関連していることは確かだが、性行動を行う「場」の多様性や、相手との関係性といった要素も行動に強く影響を及ぼすことわかりました。不特定多数にくらべてステディな相手の場合のほうがコンドームを使用しない傾向がみられること、それから、楽観という因子が抽出されたことも注目されます。

「エビデンスに基づくさまざまな啓発表現のとりくみ

～Living Togetherという戦略～」 生島 嗣



▲プレゼンテーションの様子

“Living Together”すなわち、コミュニティの仲間同士が、個人におこった事実や経験を共有することで、より実感の伴った自分事としてHIV問題をとらえることが可能になるという発想。HIV問題の当事者である陽性者やその周辺の人と、非陽性者や陽性陰性

不明の人が共感、交流することで、コミュニティを共有していることが再発見されます。ですから予防とケアが一体となっていることではじめて“Living Together”という戦略が成り立ちます。

ふれいす東京が、2001年にゲイ・バイセクシュアル男性のHIV陽性者に対して行ったWEB調査では、HIV陽性者55人から804人に感染告知がされていたことがわかりました。HIV陽性者が地域の中でよりよく共存することに、大きな予防効果があると考えられます。東京都内で年間に報告されるゲイ・バイセクシュアル男性のHIV陽性者の数から計算すると、一年間に3000人以上の人たちが、ごく身近な問題としてHIV/AIDSに出会うことになるのです。



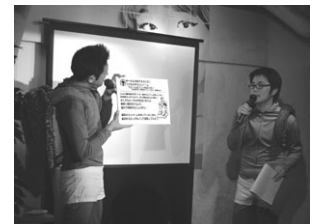
☆☆タートルズ活躍中！☆☆

“ゲイの安全なセックスライフのために闘う愛の戦士”

ふれいす東京 Gay Friends for AIDSの二人組ユニット“タートルズ”。ぶ☆PEPの女性二人組ユニット“マロンズ”に続いて、タートルズはゲイに特化したピア・エデュケーション・パフォーマンスを展開している。

昨年末12月27日に行われたクラブイベントWanna Partyを皮切りに、2月1日(財)日本性教育協会での「実践のための性教育セミナー」、2月21日のふれいす東京企画の研究成果発表会で、その愉快的パフォーマンスを見せてくれている。今後はゲイバーなどの小さな集まりや、HIVとは関係のなさそうなゲイ・イベントの中の数分といった、短いパフォーマンスも検討中。啓発イベントや勉強会に来ない人たちにこそ一番伝えたいから… 笑って、楽しんで、そして、ちょっとHIVのことも考えてもらおうという仕掛けである。

タートルズのパフォーマンス、実は研究グループの成果が反映されている。2002年度の「MSMのコンドームの使用・不使用」研究で得られた結果などを基に、どうしてコンドームを使えないか、どうしたらコンドームを使えるようになるかといったことを、とてもわかりやすく見せている。



▲「ちょっとおぼかな [すっぽんちゃん] メガネがキラリ' おりこうさんの [ソウガメ君]

[すっぽんちゃん] オレのこと信用してないのが、なんて言われちゃいそうで… こんど～む付けようなんて言いたせない

[ソウガメ君] 相手のことを思えばこそそのコンドーム。信頼とコンドーム使用は別問題です(きっぱり)



▲「おかまの保険 コンドーム♪」

[すっぽんちゃん] こんど～む付けてるあいだがじれったいの、ムードがこわして感じ

[ソウガメ君] 手早くセクシーに装着するためには、日ごろの練習もおすすめ。オナニーのときにゴムトレしてみよう

[すっぽんちゃん] こんど～むって、タチが持ってくるものじゃあなあい?

[ソウガメ君] タチでもウケでも自分でコンドームを用意しよう。自分と相手の健康のためだからね。コンドームの使用は

[ふたり] いつでも、どこでも、だれとでも!

専門学校と連携した 「HIV/AIDSポスター展」



▲兵藤、生島の両名が若者と交流、受賞者には、ふれいす東京グッズ詰め合わせを贈呈した



▲「Sexual Health 大賞」西山里佳様連作の一枚。生活のなかの健康グッズというコンセプトが私たちの心を射止めた。

出展されていた作品は、若者の感性で若者をターゲットとしたメッセージで、非常に魅力的なものであった。行政と連携しつつ、民間のデザインスクールと双方向性の交流が実現できたことで、今後の展開に大きな可能性を感じている。

これからもこれらのポスターの展示や、web上での紹介をしていく予定である。(生島 嗣)

2004年2月4日～16日まで、東京都庁の南展望室にて、東京都エイズポスター展「わたしの目」が開催された。これは、パンタンデザイン研究所、専門学校ビジュアルアーツの生徒の皆さんの参加による展示でした。

ふれいす東京では、両校の講師の方から事前に相談をいただき、オリジナルビデオ「LET'S CONDOMing」の貸し出しや、講演等の協力をを行い、ポスター制作の参考としていただいた。また、会場でもふれいす東京のスタッフによる講評と賞状と記念品の授与がおこなわれた。



▲「カップルでGOM使ってネ!賞」平林摩耶様

「生徒と共にエイズのポスター制作を考える」 勝田真黄

パンタンデザイン研究所では、グラフィックデザインの授業内で過去5年間エイズのポスターを制作しています。また、デザインの基礎を学びはじめたばかりで、ポスター制作自体も稚拙な表現に陥りがちですが、18～20歳ならではの感性で自由に表現するように心掛けています。しかし、非常にデリケートな内容なので資料をきちんと調べることを

徹底させていますが、中々資料に恵まれず苦労していました。その中で「ふれいす東京」から借り入れたビデオは生徒達にとって等身大の表現でまとめられていて、ポスター制作する上のコンセプトとして受け取りやすく、アイデアの一部として参考にしたいと思います。また、これらの作品が授業内に留まらず、東京都庁展望ギャラリーで数多くの方々に見て頂くチャンスを得て、これからの彼ら、彼女らに作品を制作して行く過程で大きな自信になりました。ただ、作りっぱなしでなく、心の何処かで、いつも意識してくれればと願っています。

活動報告— 各部門より —



▲スタッフミーティング中!

ホットライン

◆ホットライン・ミーティング実施状況 ()内は出席人数

1月

- 9日 東京都電話相談連絡会 (3名)
- 18日 スタッフミーティング (13名)

2月

- 13日 東京都電話相談連絡会 (3名)
- 16日 東京エイズ相談連絡会
「神経症・人格障害の理解と対応」(13名)
- 28日 世話人会 (5名)
スタッフミーティング (11名)

3月

- 12日 東京都電話相談連絡会 (3名)
- 28日 スタッフミーティング (10名)

◆相談実績報告

—ふれいす東京エイズ電話相談—

	1月	2月	3月
日数(日)	4	5	4
総時間(時間)	16	20	16
相談員数(のべ人)	12	15	12
相談件数(件)	36	27	24
うち(男性)	34	19	21
(女性)	2	8	3
(陽性者)	2	0	1
1日平均(件)	9.0	5.4	6.0

—東京都夜間・休日エイズ電話相談—(委託)

	1月	2月	3月
日数(日)	12	13	12
総時間(時間)	36	39	36
相談員数(のべ人)	34	34	31
相談件数(件)	248	202	197
うち(男性)	201	164	159
(女性)	47	38	38
(陽性者)	1	0	3
1日平均(件)	20.7	15.5	16.4

最近、利用状況に変化が出てきました。比較的余裕のあった平日夜間がひっきりなしにかかってくる一方、混雑していた週末の件数はやや減少気味です。新年度や連休など相談増加が見込まれる季節を前に、われわれスタッフもフレッシュな気持ちで臨みたいですね。

ぶ☆PEP

★ぶ☆PEP ミーティング実施状況

1月 8日 定期ミーティング
2月 3日 定期ミーティング
3月 4日 定期ミーティング

★ピアプログラム実施状況

1月 21日に自由の森学園へ、ぶ☆PEPメンバーを3名派遣（参加者5～12名）

★その他のイベント等

1月 13日 企業との懇親会（ぶ☆PEP3名・生島同席）
2月 26日 他団体のユースとの懇親会
（他団体ユース3名・ぶ☆PEP4名）
3月 14日 ぶ☆PEPフォローアップトレーニング
（講師 野坂祐子・生島嗣 ぶ☆PEP 5名）

★相談メール件数

件数	（女性	男性	不明）
1月	25件	（ 19	4 2）
2月	15件	（ 9	0 6）
3月	18件	（ 10	5 4）

★一般公開していない、相談の返信専用のアドレスに相談メールがくるので、一度この相談メールを利用した子からの口コミで、この相談窓口のことが広まっているのかと思います。

★フォローアップトレーニングでは、ファシリテーター講習（講師・野坂さん）とぶ☆PEPの活動の限界確認（講師・生島さん）を行いました。これらの研修で、今までのピアプログラムの問題点と改善点が見えてきました。今後改めてぶ☆PEPで話し合いの場を設け、より良いピアプログラムを作成する予定です。

バディ

◆バディ担当者ミーティング参加スタッフ数

（第1木曜 11:00～ 第3木曜 18:30～）
1/8 5人 1/22 5人
2/4 3人 2/19 6人
3/4 2人 3/18 4人

◆利用者数（2004/1～2004/3）

5カ所の病院に通院中、もしくは入院中の14名の方に20名のバディスタッフを派遣。

◆新規派遣

引越しの片付け	1件
入院中の外出の付き添い	1件
定期的な外出介助	1件
合計	3件

◆訪問先（2004/3月末現在）

在宅訪問	10
病室訪問	3
在宅への電話のみ	1

◆バディ担当中のスタッフ構成（3月末現在）

女性 16名 男性 5名

◆バディの現場から

1月～3月も引き続き、新規依頼や派遣の調整が定期的に入ってきています。待機バディと研修中のバディの協力を得ながら現在調整・派遣を行っています。待機の方には声をかけさせていただく機会が増えていますが、無理のない範囲で協力いただける場合は、是非ともよろしくお願い致します。

現在、平成15年度の活動実績の報告書を作るべく集計の真っ最中。皆さんにいただいた報告書に改めて目を通しています。クライアントや活動内容、状況などに違いはありますが、それぞれに難しさや大変さ、やりがい等を感じながら、活動していただいているのだと楽しみ感じています。バディ派遣のサービスはいつも活動して下さるバディがいるからこそ成り立っているサービスです。いつも活動にご協力いただいているスタッフの皆様本当にありがとうございます。今後も引き続きよろしくお願ひします。

また、4月に入り仕事や生活の変化等で活動が出来なくなる方・協力できる日程に変更のある方がいるかと思いますが、もし何かありましたら担当までご連絡下さい。

ネスト

◆ネスト利用状況

オープン日数 延べ利用者数（うち新規）（*ファシリテーターなど）
1月 24日 130名（3名）／（14名）
2月 25日 169名（5名）／（15名）
3月 29日 147名（4名）／（14名）

（*はファシリテーター、web NEST運営委員、お茶会、講習会などの企画・運営などの役割を担っているネスト利用者）

◆ピア・グループ・ミーティング（PGM）

- ・新人PGM第16期（参加者6名）2/7 2/26 3/7 3/20
- ・陰性パートナー・ミーティング
1/10（2名） 2/14（3名） 3/13（4名）
- ・ミドル・ミーティング
1/10（4名） 2/14（4名） 3/13（3名）
- ・グリーフ・ワーク 1/26（1名） 2/23（2名）
- ・カップル交流会 1/4（12名）
- ・もめんの会（HIV/AIDSを支える母親の会） 3/19（3名）
- ・母親の会（もめんの会から派生した集まり） 3/29（2名）
- ・既婚ゲイ/バイセクシュアル男性小ミーティング 3/5（3名）

◆ネスト・プログラム

1/4 ネスト庵新年の茶遊び（ご亭主、参加者：7名）
2/22 いちご狩り（主催：カップル交流会 参加者：16名）

◆ネスト利用者主催イベント

2/28 ゲーム&ティ・パーティ（6名）

◆ミーティング（陽性者メンバー、ぶれいず東京スタッフ）

- ・PGMファシリテーター・ミーティング
1/8（5、3名） 3/30（4、3名）
- ・新人PGM効果評価ミーティング
2/3（5、4名） 2/24（4、3名）
- ・web NEST運営委員会
1/30（4、2名） 2/26（4、2名） 3/19（4、2名）

◆ネストのあり方を考える会

1/21 学習会「さまざまなサポートのあり方 ～個別相談からグループワークまで～」講師：菱川愛さん（精神保健福祉士）
参加：陽性者4名 ぶれいず東京スタッフ6名

ファシリテーター、web NEST 運営委員、お茶会、講習会など、ネストの企画・運営に関わっている陽性者とがれいす東京のスタッフを中心に、定期的に（年2回）ミーティングを開くことになりました。その第1回目として企画された学習会です。

◆新人PGMの効果評価ミーティングがファシリテーターの有志で立ち上がりました。PGMをより良くするための基礎資料となる、アンケートの方法や内容の再検討を行っていますが、くしくもPGMの意義や目的といった根本的な問題に立ち返ることにもなりました。

Gay Friends for AIDS

◆Gay Friends for AIDS 電話相談

1月 11件 (平均 2.2件)
2月 3件 (平均 0.75件)
3月 6件 (平均 1.5件)

◆田口弘樹展 LIVING TOGETHER 発刊を記念して

〈東京展〉
1月26日～2月1日 於：akta 新宿2丁目
1月31日 HIV陽性者や周囲の人の手記リーディング
〈大阪展〉
2月28日～3月7日 於：DISTA 堂山
3月6日 HIV陽性者や周囲の人の手記リーディング

◆タートルズ(パフォーマンスDUO)

2月1日 性教育実践セミナー 於：(財)日本性教育協会
2月21日 研究成果発表会 於：ADVOCATES BAR

◆セレブレーション・ブース出展

4月4日 於：クラブハイツ

◆G-navi ～東京ゲイライフ入門～

この春、東京で新生活を始めるあなたへ
5月9日 新宿区立文化センター 和会議室
12:30会場 13:00～
(詳しくはP8を参照ください)

HIV陽性者への相談サービス

◆相談実績

2003年度	1月	2月	3月
電話による相談	36	45	52
対面による相談	36	38	43
E-mailによる相談	92	79	81
うち新規相談	11	9	18

◆新規来訪者情報源

・インターネット 6
・他の陽性者 6
・南新宿検査相談所 3
・エイズ予防財団 3
・医師 3
・看護師 2
・電話相談 2
・カウンセラー 1
・保健所保健師 1
・知人 1
・アンケート 1
・不明 9

◆新規相談者の属性

・HIV陽性者 32
・パートナー 2
・友人 2
・家族 1
・親戚 1

◆相談内容

相談の内容は感染直後の不安や混乱に関するものが多く寄せられている。その中には迅速検査法による検査結果の告知後に混乱している方からの相談も複数寄せられている。あたらしい技術による検査が実践されているなか、検査前の情報提供やガイダンスの内容、また告知やフォローアップのリソースの少なさを相談を通して感じている。また、社会生活継続のなかでの課題、就労や恋愛、セックスに関する相談も寄せられている。

研究部門

厚生労働省委託 厚生労働科学研究

◆「HIV感染予防対策の効果に関する研究」(2003年度～)

1月に高田馬場地区の福祉系専門学校を訪問、研究協力の合意を得て、2月に予備調査を実施。

2月1日には(財)日本性教育協会と「授業のための実践セミナー」を開催、合計31名が参加。内容は、代表の池上及びノートルダム清心女子大学助教授東優子による講義(テーマ:セクシャルヘルスを拓げるための理論武装)、並びに「性教育教材の手作り」ワークショップ。参加者からは昨今の「性教育バッシング」を憂慮する意見や「参加型の性教育」の有効性への気づきなどが寄せられました。(03年度の全体報告はP2～3。04年度の開催予定はP8ご参照)

今後平成16年度も平成15年度の成果をもとに、引続き実証的な研究を続ける計画です。

◆「HIV感染者の地域生活支援におけるソーシャルワーカーの連携に関する研究」(2003年度～)

「肢体不自由を併せ持つ感染者の社会福祉サービス利用の障害要因について」については、PWA/Hの方々へのインタビューを続行。「HIV陽性者の就労状況について」も、北海道・九州・近畿・東京地区の拠点病院にて調査を継続。後者の分析結果は、エイズ予防財団助成の「研究成果発表事業」により、調査にご協力戴いた拠点病院を中心に今後ご報告していく予定です。

エイズ予防財団助成 研究成果発表会

◆「男性同性間の性行為におけるHIV感染の拡大とその背景」

2月21日に、ADVOCATES BAR(新宿二丁目)にて約30名の来場者を迎え行われました。詳しくはP4ご参照。ゲイ向けの企画として、2004年度も5月9日に「G-navi」を開催予定です。(G-naviについてはP8ご参照)

★3月28日に、毎年恒例のがれいすお花見がありました。今年はめずらしく好天に恵まれて参加70人の大盛況。楽しく大いに盛りあがりました。



▲ココロガケのよい人たち

お知らせ

●特定非営利活動法人ぶれいす東京 第4回総会・活動報告会

恒例の総会・活動報告会を今年も開催します。今年は特に10周年記念ということで、素晴らしいゲストを招いてのトークSHOWを企画しました。各部門の報告は毎年、大好評。活動がひろがり、時間内に納めるのが大変です。ぜひ、みなさまご参加ください。

代表 池上千寿子

日時：2004年5月29日(土)

総会 18:00～ 正会員/活動会員/賛助会員による会

活動報告会18:30～ どなたでも参加可能です

※ぶれいす東京の会員・賛助会員、寄付者・ネスト利用者・招待者

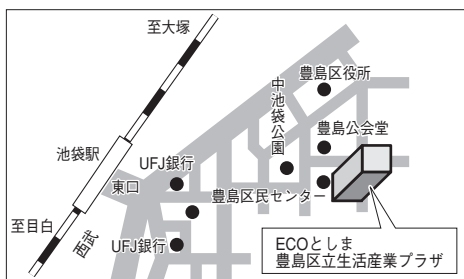
は無料。それ以外の方は資料代として1000円いただきます。

懇親会 21:30～ どなたでも参加可能です/会費制

場所：ECOとしま 豊島区立生活産業プラザ 他目的ホール(8F)

東京都豊島区東池袋1-20-15 TEL:03-5992-7011

池袋駅東口より徒歩7分



【活動報告会プログラム】

★挨拶

★部門報告

★活動報告会トークSHOW

「それぞれの10年を振り返る ～LIVING TOGETHERのココロ～」

出演者

張 由起夫(アーティスト)＝ビデオ出演

親交のあった古橋悌二氏をHIVで失い、その後の彼自身のこれまでの活動を振り返る。個人として、活動家として。

ひまわり

1994年に出産がきっかけで、パートナーとともにHIV感染を知る。

根岸 昌功(医師・駒込病院感染症科)

日本でもっとも早く、治療を開始し、医療機関の最前線で働き続け、また社会を教育する役割も担ってきた根岸さん。彼の10年はいかに。

池上 千寿子(セクソロジスト)

私達は10年にわたり、様々な取り組みを実践してきました。ネガティブな文脈はもうたくさん! 前向きに楽しく創りだそう。

●G-navi ～東京ゲイライフ入門～ この春、東京で新生活を始めるあなたへ

日時：5月9日(日)13:00～16:30

(12:30開場)

会場：新宿文化センター4階 和会議室

首都圏での男性同性間の性行為によるHIV感染が相変わらず増えています。そこで、この春、東京で新しくゲイライフを始める「新人」の方を対象に、予防啓発プログラム「G-navi」を開催いたします。

主催：(財)エイズ予防財団

共催：ぶれいす東京 Gay Friends for Aids

プログラム

1. 「新人」向けの東京ゲイライフに役立つ情報提供

……その道の「プロ」がわかりやすく行います

出演 「Safer Sex」入門：U-suke(合コム/Rainbow Ring)

「クラブ/2丁目」入門：L(ドラッグクイーン)

「web」入門：まなぶ(@-nice/スタジオスタッグ)

「ハッテン場」入門：RYOJI(GUTS主催/某ヤリ部屋店員)

2. 予防啓発パフォーマンス

……コンドーム使用テクニックを楽しく教えちゃいます

出演 タートルズ(ぶれいす東京内男性ユニット)

3. 友達作りの場として参加者の交流タイム



●2004年度「実践のための性教育セミナー」

大好評だった連続セミナーを2004年度も開催します。

企画・実施：ぶれいす東京、主催：(財)日本性教育協会(JASE)

日時：第1回 8月22日(日)10:30～16:30

第2回 8月28日(土)10:30～16:30

第3回 2月5日(土)10:30～16:30

第4回 2月6日(日)10:30～16:30

場所 日本性教育協会セミナールーム

*詳細はホームページにてお知らせします。

問い合わせ：(財)日本性教育協会

TEL:03-6801-9307 <http://www.jase.or.jp/>

●田口弘樹写真展(名古屋展)

「LIVING TOGETHER manual」の発刊を記念して、この小冊子のために撮りおろされた写真を中心に展示されます。すでに、東京・新宿2丁目akta、大阪・堂山DISTAで大盛況のうちに開催され、6月には名古屋展が開催されます。

HIV陽性者と周辺の人たちの手記を読むイベントや、手書きの手紙集「L.T.手紙プロジェクト」も行われる予定です。

日時：6月5日(土)12:00～17:00、6日(日)10:00～16:00

場所：詳細はホームページにて

主催：NLGR 2004

<http://aln-nlgr.cside.com/nlgr2004/js/index.htm>

共催：ぶれいす東京 Gay Friends for Aids



■編集後記

・5ページの大賞ポスター、モノクロだとわかりづらいので実況をば。炊飯器の中のコンドームと、「あたりまえのこと ご飯を食べることと同じ」というコピーがピンク色で描かれています。以上現場でした～(サトー)

・久しぶりに親子で旅行をしようかと… あれこれ欲張らずに、のんびりとネ(やじま)

・事務所の窓から見える鮮やかな緑たちが、元気をくれるような気がして、なんか新しく始めてみたい誘惑にかられます。でも我慢。(いくしま)

編集・発行：ぶれいす東京

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-22-46 ザ・テラス304

【TEL】03-3361-8964(月～金 12:00～19:00)

【FAX】03-3361-8835

【E-mail】info@ptokyo.com

【ぶれいす東京HP】<http://www.ptokyo.com/>

【Gay Friends for AIDS】<http://gf.ptokyo.com/>

【web NEST】<http://www.jade.dti.ne.jp/~nest/>

【Sexual Health】<http://shw.ptokyo.com>